

クリニックデザイン

「院内のいすは、東京のショールームまで赴いて自分で選んですべて選びました」と、こだわりの見える坂本泰秀院長



- 1 女性トイレにも配慮し、おしゃれな鏡や洗面台、天井には花柄の壁紙を採用。ドアを開けてすぐに便器が見えないように、すりガラスを施しているのも好評
- 2 広くて明るい相談室。いすは革張りで一見高そうに見えるが、自身で探し回り安価で良質な製品を購入
- 3 患者の利便性を考え、院内処方を実施
- 4 「優秀な人が採用できました」と、坂本院長が誇る同院スタッフ
- 5 気分によって患者が待つ場所を選べる待合



DATA
 設計・監理：株式会社リチエルカーレ
 延べ床面積：449.5㎡
 工期：2010年9月～11年1月末

の高さに驚きました」と、坂本院長は目を細める。
 居心地のよさが評判で、患者数は少しずつ増加。将来は介護事業の展開なども視野に入れる。「専門の内科・循環器疾患の治療だけでなく、高齢者の生活の質を高めるサービスを提供したいと思っています」



他者がいても気にならない
 プライベート感覚に富む待合空間

CLiNic DeSiGN
 クリニックデザイン

秀クリニック

群馬県太田市高林北町2030-1 診療科目：内科、循環器科

開院前に実施した内覧会に180人が駆けつけるなど、地域からの大きな期待を背に今年2月、群馬県太田市にオープンした秀クリニック。アメニティーの評判が高く、特に坂本泰秀院長が「こだわった」という待合は、待ち時間による患者のストレス軽減に配慮した工夫が随所に施されている。撮影＝関口宏紀

読書にふけったり
 パソコン作業を行うことも可能

「カフェのように、他者がいても気にならないプライベートな空間を保持できれば、患者さんはストレスを感じないと考えました」と語る坂本泰秀院長。その言葉どおり、秀クリニックの待合は3つのスペースから構成され、患者の気分やニーズによって待つ場所を選べるようになっている。

1つは、受付を背に設けられたカウンター席。通常よりも低くして高齢者も座れるように配慮している。2つ目は、待合の一部を支柱で囲った空間。どちらも受付スタッフやほかの患者と視線がぶつからないようになっていたため、読書にふけることはもちろん、電源を確保しているためパソコン作業を行うことも可能だ。さらに、診察の順番や会計などで名前が呼ばれたらすぐに行けるように、あえて受付と正対するスペースも設置している。「思いどおりの待合で、設計してくれたリチエルカーレには感謝しています。私の希望を2回目の打ち合わせの時にはきちんと形にしてくれるなど、レベル